

主題：神の家また神の都としての召会を建造するための
主の回復の内在的な意義

メッセージ 5

神の家の建造

(1)

神の建造のビジョン

聖書：マタイ 16:18、エペソ 2:21-22、3:17 前半、4:16、I ペテロ 2:5、啓 21:2-3

- I. 聖書の主要な題目は、神の建造です。こういうわけで、全聖書は建造の書です——創 2:22、28:10-22、マタイ16:18、エペソ2:21-22、3:17前半、4:16、I ペテロ2:5、啓3:12、21:2-3。
- II. 神の建造は、神の心の願いであり、神の救いの目標です——エペソ1:5、9、出25:8、40:2-3。
- III. 救いの中心的で神聖な思想は、神が、神ご自身と神性とのミングリングである神聖な建造を求めているということです。神は、ご自身によって贖われて、ご自身とミングリングされている生きた人たちから成る生きた構成体を求めています——ヨハネ14:20、Iヨハネ4:15：
- A. 神の建造の原則は、神がご自身を人の中に建造し込み、人をご自身の中に建造し込むことです。神と人とのミングリングは、神がご自身を人の中に建造し込むことです。人と神とのミングリングは、人が神の中に建造し込まれることです——エペソ3:17 前半。
- B. 神は建造を持つことを意図しておられ、その中で神は人の中に建造し込まれ、人は神の中に建造し込まれます。それによって、神と人、人と神は、お互いに相互の住まいとなることができます——ヨハネ 15:4 前半、啓 21:2-3、22。
- IV. 神の建造は、三一の神の団体の表現です——Iテモテ3:15-16、ヨハネ17:22、エペソ3:19後半、21：
- A. 神の意図は、霊的な建物として建造された一群れの人々を得て、神を表現し、神を代行して、神の敵を対処し、失われた地を回復することです——創 1:26、I ペテロ 2:5、9。
- B. 聖徒たちが一つの団体的な表現へと建造されることが、真の証しです——啓 1:2、12、20。
- V. 神の建造は、神の拡大です——ヨハネ3:29前半、30前半、コロサイ2:19：
- A. 正当な建造は、三一の神の拡大、拡張であり、神はご自身を団体的な方法で表現することができるようになります——エペソ 2:21-22、コロサイ 2:19。
- B. 神の建造とは、命としての三一の神がわたしたちの中に造り込まれ、それによってわたしたちが彼の一つの表現、すなわち、神の拡大と拡張になることです——エペソ 3:17 前半、19 後半、21。
- VI. エゼキエル書において、主は預言者に、「イスラエルの家に家を書き記して」、「彼らにその型を測らせよ」と指示しました——43:10：
- A. 神の意図は、ご自身の民の生活と振る舞いとその家によって調べることでした。エ

ゼキエル書において、神は彼らを宮によって測りました：

1. 神の家が彼らの規定となるべきであったので、神はエゼキエルに、彼らにその家の形を示すように命じました。
 2. 神の宮は一つの型です。もし民が自分自身をこの型の光の中で吟味するなら、彼らは自分たちの欠け目を知るでしょう—— 11 節. 41:15-20。
 3. 民の生活は、神の宮と一致していなければなりません—— I コリント 3:16-17。
- B. エゼキエル書によれば、内住のキリストの要求は、彼の家にしたがっています。あらゆる人は、神の家の測りにしたがって測られ、調べられなければなりません—— 43:10 :

1. わたしたちの行為と振る舞いは、道德上の規定や霊的な原則だけにしたがって吟味されるのではなく、神の家である召会にもしたがって吟味されるべきです—— I テモテ 3:15-16。
2. わたしたちの主要な関心事は、行儀良く振る舞うことや霊的になることではなく、神の家に適合することであるべきです—— I コリント 14:12。
3. わたしたちであるものやわたしたちの行なう事が神の建造に一致しなければ、神の目にそれは無を意味します—— 3:10-15。
4. からだは、わたしたちの霊性についての最大のテストです。もしわたしたちがからだの生活のテストにパスすることができなければ、わたしたちの霊性は本物ではありません—— 12:23-27。
5. 霊性は、からだの事柄です。わたしたちの持つあらゆるものは、からだの中にあり、からだを通してであり、からだのためです——エペソ 4:16。

VII. 創世記第35章には、神を個人的に経験することから、神を団体的に経験すること、すなわち、神をエル・ベテルとして、ベテルの神として経験することへと、極めて重要で劇的な転機があります——創35:1, 3, 6-7, 15. エペソ3:17-21. 4:4-6 :

- A. 以前は、神は個人の神でした。ベテルでは、神は団体の神、神の家の神でもありません。
- B. ベテルは、団体の生活を表徴しており、それはキリストのからです。こういうわけで、ヤコブは神をベテルの神と呼ぶことによって、個人的な経験から団体的な経験へと前進しました—— I コリント 12:12。
- C. シケムの祭壇は個人的な祭壇です。しかし、ベテルの祭壇は団体的な祭壇、すなわち、神の家のための祭壇です——創 35:6-7。

VIII. この宇宙において、神がただ一つの事を行なっていること、すなわち、彼の永遠の住まいを建造しているという思想で、わたしたちは照らされ、完全に浸透される必要があります——創28:16-19. マタイ16:18. エペソ2:21-22. 啓21:2-3。

IX. 主の願いにしたがって建造された召会だけが、王国の時代へと至る踏み石になることができます。こういうわけで、主の再来のために、主は召会が建造されることを必要とします——マタイ16:18-19, 27-28。